

## 製品安全データシート

### 1 製品及び会社情報

製品名 ガラスコート GC60  
会社 株式会社 ニューホープ  
住所 埼玉県坂戸市本町7-17  
電話番号 049-277-5333

### 2 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	区分2
金属腐食性物質	区分1
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分5
急性毒性（経皮）	区分5
急性毒性（吸入：蒸気）	区分2
皮膚腐食性／刺激性	区分1
目に対する重篤な損傷／目刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分2
標的臓器/全身毒性（単回暴露）	区分1
標的臓器/全身毒性（反復暴露）	区分2
吸引性呼吸器有害性	区分1
環境に対する有害性	
水性環境性有害性	区分外
水性環境慢性有害性	区分外
オゾン層への有害性	分類できない

#### GHSラベル表示

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気金属腐食の恐れ  
重篤な皮膚の薬傷・目の損傷  
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い  
臓器（中枢神経系、肝臓、全身毒性）の障害  
呼吸器への刺激のおそれ

長期または反復暴露による臓器（血管、肝臓、脾臓）の障害のおそれ  
飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ

#### 注意書き

##### <取扱い上の注意>

- 換気の良い場所で使用し、容器は使用毎に密栓する。
- ミストの発散を抑え、作業環境濃度を出来るだけ低く保つように努める。
- 発生させたミストは吸い込まないようにする。
- 取扱い時は、適切な保護具を着用する。
- 取扱い後は、うがい・洗顔を行うこと。作業衣等に付着した場合は着替えること。
- 他の薬剤と混合させないこと。
- 付近に着火源となるもの（火気・スパーク・高温物）の使用を避ける。

##### <応急措置>

- 目に入った場合 直ちに清浄な流水で少なくとも15分間以上洗眼する。洗眼の際、瞼を指で良く開いて眼球、瞼の隅々まで水が行き渡るようにする。刺激等の異常が残る場合には直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付いた場合 直ちに汚染した衣類、靴を脱ぎ、付着した部位を多量の水と石鹼を使って洗い流す。刺激が残る場合は医師の診断を受ける。
- 吸入した場合 多量にミスト等吸引した場合、直ちに新鮮な空気のところへ移し保温しながら安静にする。呼吸が困難な場合、ネクタイ・ベルト・ウエストバンド等の衣類の締め付けを緩めて人工呼吸を行う。呼吸が不規則な場合や吐き気がする場合、気分が回復しない場合は直ちに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 水で口の中を洗浄し多量の水を飲ませ吐き出させる。直ちに医師の診断を受ける。意識のない場合は、口から何も与えてはならない

##### <保管上の注意>

- 液が漏出しないように密栓する。
- 高温多湿化での保管を避ける。
- 凍結の恐れのある場所での保管を避ける。
- 高温体との接触を避ける。

### 3 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

含有成分及び含有量

<成分名>	<含有量w t %>	<CAS No. >	<安衛法No. >
IPA	85	67-63-0	492
シリコーン類	非公開	非公開	非該当
無機酸	非公開	非公開	非該当

IPA：イソプロピルアルコール

### 4 応急措置

- 目に入った場合 必ず直ちに清浄な流水で少なくとも15分間以上洗眼する。コンタクトレンズははずし、洗眼の際、瞼を指で良く開いて眼球、瞼の隅々まで水が行き渡るようにする。刺激等の異常が残る場合には直ちに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 直ちに水で口を洗った後コップ1～2杯の水を飲ませ吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。意識のない場合は、口から何も与えてはならない
- 皮膚に付いた場合 直ちに付着した部位を多量の水と石鹼を使って洗い流す。刺激が残る場

吸入した場合 合は医師の診断を受ける。  
多量にミスト等吸引した場合、直ちに新鮮な空気のところへ移し保温しながら安静にする。呼吸が困難な場合、ネクタイ・ベルト・ウエスト、バンド等衣類の締め付けを緩めて人工呼吸を行う。  
呼吸が不規則な場合や吐き気がする場合、気分が回復しない場合は直ちに医師の診断を受ける。

## 5 火災時の措置

消化剤 粉末 炭酸ガス 泡消火器  
使ってはならない消化剤 なし  
消火方法 火元への燃焼元を断つ。初期消火には、粉末、炭酸ガス、泡消火器等を用いる。  
消化者の保護 適切な保護具（保護手袋、保護マスク、保護眼鏡）を着用する。

## 6 漏出時の措置

人体に対する注意事項 漏出防止、除外などの作業は、必ず、保護具を着用する。  
環境に対する注意事項 流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起ささないように注意する。  
回収、中和などの浄化の方法  
多量の場合 土嚢で流出を防ぎ、ポンプ等で空容器に回収する。  
その後、漏出区域周辺を多量の水で洗い流すこと。洗浄した水は地面や排水溝等にそのまま流さないこと。回収して適当な容器に入れる。  
少量の場合 ウェス、おがくず等に吸収させて空容器に回収する。残りは多量の水で洗い流す。

## 7 取扱い及び保管上の注意

### <取り扱い上の注意>

換気の良い場所で使用し、容器は使用毎に密栓する。  
ミストの発散を抑え、作業環境濃度を出来るだけ低く保つように努める。  
発生させたミストは吸い込まないようにする。  
取扱い時は、適切な保護具を着用する。  
取扱い後は、うがい・洗顔を行うこと。作業衣等に付着した場合は着替えること。  
他の薬剤と混合させないこと。  
付近に着火源となるもの(火気・スパーク・高温物)の使用を避ける。

### <保管上の注意>

液が漏出ないように密栓する。  
高温多湿化での保管を避ける。  
凍結の恐れのある場所での保管を避ける。  
高温体との接触を避ける。

## 8 暴露防止及び保護措置

### <製品の有害性及び暴露濃度基準>

管理濃度 設定されていない  
許容濃度  
日本産業衛生学会 設定されていない  
ACGIH 設定されていない  
保護具 保護眼がね、保護手袋等 有機溶剤用保護マスク  
設備対策 防爆の電気機器の使用、局所排気装置

組成物の暴露濃度基準

原料名	管理濃度	ACGIH TWA	日本産業衛生学会	その他
イソプロピルアルコール	400 ppm	400 ppm	400 ppm	情報なし
シリコーン類	設定なし	設定なし	設定なし	設定無し
無機酸	2 ppm	2 ppm 5. 2 mg/m <sup>3</sup>	情報なし	4 ppm (STL)

## 9 物理及び化学的性質

外観	無色透明液体
臭気	IPA臭
比重	0.8 (原液 20℃)
pH	酸性
溶解性	水に溶解する
引火点	約12℃(IPAとして)
爆発限界	(下限) 2.07 vol% (上限) 12.7 vol% (IPAとして)
蒸気圧	データなし
可燃性	燃焼する
発火点	データなし
酸化性	なし

## 10 安定性及び反応性

安定性	通常取り扱い条件においては、光、熱、衝撃に対して化学的に安定。
避けるべき条件	高温 スパーク 裸火
混融危険物質	なし
危険有害な分解生成物	燃焼すると一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

## 11 有害性情報

製品についての有害性情報はないため、有害性を示す成分についてのデータを示した

### IPA

#### 急性毒性

経口	ラット：LD <sub>50</sub> 5280 mg/kg
経口	ラット：LD <sub>50</sub> 5500 mg/kg
経皮	ウサギ：LD <sub>50</sub> 12870 mg/kg
経皮	ウサギ：LD <sub>50</sub> 4059 mg/kg ヒト：TDL <sub>0</sub> 223 mg/kg
吸入 {蒸気}	ラット：LC <sub>50</sub> 16000 mg/kg

飲み込むと有害のおそれ

皮膚に接触すると有害のおそれ

#### 皮膚刺激性・腐食性

ウサギでの皮膚刺激性試験では、刺激性無しまたは軽度の刺激性が報告されている  
ヒトでは刺激性を示さない。

#### 眼に重篤な損傷・刺激性

ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるが、重篤な損傷性は記述されていない。

強い眼刺激 →区分2A

呼吸器感作性または皮膚感作性 データなし

生殖細胞変異原性 in vivo でのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性

癌原性 アメリカのIPA製造工場では認められる事例はないと報告

生殖毒性 ラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加、麻酔作用などの毒性をしめした。また妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加などの生殖毒性が認められた (ACGIH (2003))

標的臓器／全身毒性 (単回暴露) : ラットでの吸入暴露による活動性の低下がある (ACGIH(2003))  
ヒトでの経口摂取急性中毒では消化管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経症状、腎障害が認められた (AGGIH(2003))

標的臓器／全身毒性 (反復暴露) : ラットでの86日間または4ヶ月間吸入暴露試験で、血管、肝臓、脾臓  
に影響が認められた (EHC (1990))

吸引性呼吸器有害性 : ヒトに関する情報はないが、ラットでの気管内投与により。24時間以内に心肺停止による死亡が認められた。(EHC (1990))

シリコン類 現時点では、通常に取扱いによる有害性は確認されていない

## 無機酸

急性毒性

経口 データなし

経皮 データなし

吸入 (ミスト) LC<sub>50</sub> 0.05~0.5 mg/L

刺激性

眼 ヒトの眼に暴露すると激しい熱傷が起こり、角膜を混濁、視力障害から失明に至る。

皮膚 ヒトに対し腐食性がある (ICSC 1994年)

呼吸器感作性 データなし

変異原性 Ames Test 陰性

発癌性 ラットを使用した2件の吸入暴露試験報告で発癌性なしの結果

生殖毒性 妊娠ラットに飲水投与した試験で胎児に僅かな頭骨の骨化阻害が見られたのみで、催奇性、胎児毒性は起こさないとの結果

標的臓器／全身毒性 (単回暴露) 蒸気を吸入して上気道の刺激、咳、呼吸困難、胸の痛み、暴露濃度、暴露時間によっては肺水腫を起こす (ACGIH (2001年))

標的臓器／全身毒性 (反復暴露) ミスト、又は硝酸から発生した蒸気の職業暴露で慢性気管支炎、歯の侵食が生じるACGIH (2001年))

吸引性呼吸器有害性 吸引により化学性大葉性肺炎をおこした

## 1.2 環境影響情報

製品についての有害性情報はないためここでは有害性を示す成分についての有害情報性を示した

### I P A

水性環境急性有害性 魚類 ヒメダカ LC<sub>50</sub> > 100 mg/L / 96 H  
区分外

水性環境慢性有害 難水溶性でなく急性毒性が低いことから区分外  
残留性・分解性 情報なし

- BOD<sub>20</sub><sup>20</sup> 1.68 10 ml/L 非馴化汚泥
  - BOD<sub>5</sub><sup>20</sup> 0.16 10 ml/L 非馴化汚泥誘導期間5日
  - BOD<sub>5</sub> 理論酸素要求量の13%、28%、60%
- 理論酸素要求量 (ThOD) 2.40

生体蓄積性 情報なし

土壌中の移動性 情報なし

オゾン層有害性	無し
シリコン類	現在の所、有用な情報は得られていない
無機酸	
移動性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
生態毒性	水棲生物毒性：情報なし

### 1 3 廃棄上の注意

廃液、容器等の廃棄物は、認可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理する。  
 容器、製造装置などを洗浄した排水はそのまま流さないこと。  
 排水処理により発生した廃棄物についても 廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

### 1 4 輸送上の注意

国連分類 クラス 3 (引火性液体)  
 国連番号 1 2 2 3  
 陸上輸送 取扱い及び保管上の注意の項に従う。  
 海上輸送 船舶安全法に定めるところに従う。  
 航空輸送 航空法に定めるところに従う。  
 注意事項 運搬に際しては容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を完全に行う。

### 1 5 適用法令

消防法 危険物 4 類アルコール類  
 労働安全衛生法 別表第 1 危険物 四 引火性のもの  
 第 5 7 条第 1 項 (名称等を表示すべき有害物) I P A  
 第 5 7 条の 2 第 1 項 (通知対象物質) I P A  
 第 2 種有機溶剤 I P A  
 毒物及び劇物取締法 該当せず  
 P R T R 法 該当せず

### 1 6 その他の情報

引用文献  
 G H S 対応による混合物 (化学物質) の MSDS 作成法の研修テキスト  
 中央労働災害防止協会  
 1 5 1 0 7 の化学商品 化学工業日報社  
 製品安全データシート 各原料メーカー  
 G H S 分類対象物質一覧 独立行政法人 製品評価技術基盤機構

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しており、上記の情報は新しい知見により改訂されることがあります。又危険有害性の評価は必ずしも十分ではないので製品の取扱いには充分注意して下さい。また、情報は安全を保証するものではありません。本品の適正な使用については使用者の責任において行って下さい。